

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
281	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Comparative Study on the Antioxidant Capacity of Wines and Other Plant-Derived Beverages. ワインや他の植物由来の飲料の抗酸化能力の比較研究	
執筆者	
Actis-Goretta L, Mackenzie GG, Oteiza PI, Fraga CG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann N Y Acad Sci. 2002 ;957:279-283.	
キーワード	
ワイン、抗酸化、ポリフェノール	
要 旨	
<p>これまでの疫学的な研究によりお茶やワインなどの植物由来の飲料を飲む人で心臓病やアテローム性動脈硬化による罹患率や死亡率の割合が少ないことが報告されている。本研究では 3 つの赤ワインの抗酸化能力と茶とマテ茶の抽出物とについての比較検討を行った。方法は(1) 抗酸化能力はルミノール誘導性の化学蛍光分析(TRAP)の阻害により検討 (2) 蛍光法によるリポソームでの 2,2'-thiobarbituric 反応物質の形成(3)AMVN 誘導性酸化からの Jurkaat 細胞の保護は 5-(ando6)-carboxy-2.7-dichlorodihydrofluorescein diacetate の蛍光由来物の酸化を測定により検討、の 3 つで行った。ポリフェノール含量は分光光度計、電気検知式 HPLC により測定した。調べた 3 つの飲料で、全てのアッセイ法により、投与量依存的に抗酸化保護が観察された。抗酸化能力と全てのポリフェノール含量の間で有意な正の相関が観察された。</p> <p>これらの結果から、日常的に摂取する物質が酸化ストレスからの保護的役割を担っていることが示唆される。活性成分の代謝や吸収の研究をすすめていくと、健康のためのこれらの結果の生理学的関連性が明らかとなるだろう。</p>	